

第3回 次世代構造システム分科会 議事録

日 時：平成31年3月19日（火）10:00～12:00

場 所：日本学術会議 5-A(1) 会議室.

出席者：前川（委員長）、依田（副委員長）、風間[S]、東畑、斉藤[S]、小野（幹事）、藤田（幹事）
以上、計7名（敬称略、順不同。[S]はスカイプでの参加）。

配付資料：

- ・資料0：議事次第
- ・資料1：第2回 次世代構造システム分科会 議事要旨（案）
- ・資料2：技術認証の新しい仕組みの提案
- ・資料3：H30年度予算の再配分（非公開資料）
- ・資料4：技術認証の仕組みについて

議事

1. 前回議事録要旨

前回議事録要旨案（資料1）が承認された。

2. 前回委員会以降の活動について

- ・前川委員長より、前回の委員会以降に行われた検討について以下のとおり説明された。
- ・本分科会は3年計画であり1年目は比較的ゆっくり問題点の整理などを行う予定であった。しかし昨今、建築物の品質保証に関して重大な問題が複数発生したことを受けて、公共建築物の設計・技術・改修技術の評価について早急に検討が必要であるという認識に至った。前回の委員会から、3回幹事会を開催し意見交換を行ったところ、多くの機関は人材不足であり共通の問題意識を持っていることが分かった。産学官で良好な関係を築く具体性のある提案・提言ができそうである。

3. 技術認証の新しい仕組みについて

- ・小野幹事より資料2、4に基づき技術認証の新しい仕組みの提案について説明された。
- ・現在、建築では大臣認定というシステムがあるが土木（橋梁）にはない。技術認証について、国だけで対応するのではなく国以外の機関（土木学会、JSSC、JCI など）に性能検証法案の検討をお願いし、その案を基に国が学産と連携して検証法を決定する、そして、その検証法を使用して個別の技術の評価は指定機関等が行う、といった民・官・学が連携する仕組みを作ることは大変有益であると考えられる。
- ・現在の案は主に橋梁の技術認証を想定している。分野が異なると技術認証のシステムが異なるため、とりあえず橋梁を例に検討し、他の分野でも参考にできるものがあれば適宜活用する方向で検討を行うが良いのではないか。また、この案で想定している技術は基幹的なものであり、基幹的な技術でない個別の製品、技術の技術認証と本日紹介した基幹的な技術認証の適用の棲み分

けや、基幹的でない技術に対しては簡略な方法を取るなどの工夫も必要である。

- ・小野幹事、依田副委員長は関係する機関と省庁とも情報交換を行っているとの報告があった。
- ・前川委員長より、提案する新しい仕組みにより技術認証と併せて博士課程学生の教育や研究費が適切に動いていくようにする必要があることが指摘された。また、現時点までの関係機関と情報交換では、お互いの基本的な方向性は同じであるという良い感触を得ていることが報告された。
- ・東畑委員より、予算規模が実験などをできる程度の額であり、会議費だけでは十分に仕組みがいかされないの、意思疎通をしっかりとする必要があることが指摘された。また技術開発について、採用される見込みがないと開発に投資しないのではないかという指摘がされた。
- ・前川委員長より、学の方から必要な技術の提言するのが良いという意見があった。
- ・斎藤委員より、国際化については国が主導的に進めるべきであることが指摘された。

4. 予算について

- ・今年度の予算が枯渇したため、旅費の支払いができない旨報告がされた。

5. 今後の進め方

- ・各委員は資料2を参照の上、各自が関係する分野でどのようなことが考えられるかを検討し、次回の分科会で事例の紹介をしてほしい。
- ・来年度にはこの提言に関するシンポジウムを開催する予定である。

次回の予定

5/20 10:00~12:00 分科会

午後は土木・建築の全体会議

－以上－